

半島に生息するトゲヒゲトチビシデムシとチョウセンヒゲトチビシデムシの2種だけであった。それ故、筆者は漠然と同種群は朝鮮半島経由で日本に侵入したと考えていた。ただ、大陸からチョウセンヒゲトチビシデムシが現在の日本列島に到達した後、トゲヒゲトチビシデムシが種分化したとするには、チョウセンヒゲトチビシデムシの特徴的な雄前脛節の腹側先端の刺(図16)の存在がネックになる。他のヒゲトチビシデムシの形態を鑑みると、同形質は明らかに派生形質だからである。無論、トゲヒゲトチビシデムシが日本列島内で種分化する際に雄前脛節の刺を再び失った、と解釈できないこともないのだが、どうにもこうにも引っかかる。

また前号(保科, 2018)で紹介した *Colon itoi* 種群の2種が琉球列島で発見されたことから、*Colon itoi* 種群が旧北区の東の端のみに分布する種群ともいえなくなった。筆者はたった1種の分布に関する新知見から、頭の中で描いていた特定の分類群の生物地理学的ストーリーが脆く崩れた苦い経験をしたばかりである(保科, 2017)。日本を取り巻く極東ロシア、中国大陸、台湾のヒゲトチビシデムシ相の知見が極端に乏しい現在、ヒゲトチビシデムシの生物地理については当分口をつぐんでいた方が良さそうだ。

謝辞

本稿で扱ったチョウセンヒゲトチビシデムシの標本を数多く提供してくださった本学会員の鈴木茂氏に厚く御礼申し上げる。

引用文献

- Hisamatsu, S., 1985. Notes on some Japanese Coleoptera, I. Transactions of the Shikoku Entomological Society, 17: 5-13.
- Hoshina, H., 2009. A taxonomic revision of the subfamily Coloninae (Coleoptera: Leiodidae) from Japan and Taiwan. Tijdschrift voor Entomologie, 152: 237-286.
- 保科英人, 2016a. 日本産ヒゲトチビシデムシ類要説(II). さやばねニューシリーズ, (22): 1-7.
- 保科英人, 2016b. 日本産ヒゲトチビシデムシ類要説(III). さやばねニューシリーズ, (23): 1-5.
- 保科英人, 2017. 北海道産タマキノコムシ亜科北方系2属に関する知見。一トムラウシ溪谷産甲虫目録から見えてくるもの。神奈川虫報, (194): 5-8.
- 保科英人, 2018. 日本産ヒゲトチビシデムシ類要説(VII). さやばねニューシリーズ, (29): 1-5.
- Hoshina, H. & K. Morimoto, 1999. Descriptions of three new species of the genus *Scaphidium* (Coleoptera: Staphylinidae: Scaphidiinae) from the Ryukyus, Japan. Japanese Journal of systematic Entomology, 5: 87-95.
- Park, S.-J., H. Hoshina, H., & K.-J. Ahn, 2005. Descriptions of two new species of the genus *Colon* Herbst (Coleoptera: Leiodidae: Coloninae) from Korea and Japan. The Coleopterists Bulletin, 59: 407-413.

(2018年8月24日受領, 2018年8月31日受理)

【短報】大東諸島初記録となるヒゲトテントウダマシの採集

ヒゲトテントウダマシ *Trochoideus desjardinsi* Guérin-Ménéville は、特異な太い触角を持つテントウムシダマシ科の甲虫で(佐々治, 1985), 好蟻性昆虫としても知られている(寺山・丸山, 2007)。本種は、東アジア, 東南アジア, ミクロネシア, アフリカに分布しており、日本では琉球諸島の沖縄諸島と先島諸島および小笠原諸島から記録されている(佐々治, 1985)。筆者らは、これまで本種の記録のなかった大東諸島の南大東島で(佐々治, 1985; 東, 1989), 本種を採集しているので報告する。



図1. 南大東島産ヒゲトテントウダマシ(スケールは1mm)。

1♂(図1), 沖縄県島尻郡南大東村(25°51'28"N, 131°15'37"E), 14. VIII. 2015, 矢代敏久・柳元亜由美採集。

なお、本種はこれまでアリやシロアリの巣中から得られているが、通常はアシナガキアリ *Anoplolepis gracilipes* (Smith) の巣に見られる(寺山・丸山, 2007)。本採集個体も、シュワルツカンザイシロアリ *Incisitermes schwarzi* (Banks) の巣中から得られたものであるが、近くにはアシナガキアリの巣もあったことも記しておく。

引用文献

- 東 清二, 1989. 南大東島の昆虫相に関する若干の考察. 沖縄農業, 24 (1・2): 27-39.
- 佐々治寛之, 1985. テントウムシダマシ科. 原色日本甲虫図鑑(III): 237-243 (pl. 39). 保育社, 大阪.
- 寺山 守・丸山宗利, 2007. 日本産好蟻性動物仮目録. 蟻, (30): 1-37.

(矢代敏久 Sydney, NSW 2006, Australia
シドニー大学生命環境科学部)

(矢代亜由美 604/15 Atchison Street, St Leonards,
NSW 2065, Australia)